

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401459
法人名	特定非営利活動法人 しまばら
事業所名	グループホーム たけふえ
所在地	長崎県島原市有明町湯江丁2591-2 (電話) 0957-61-9721
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 1月16日

【情報提供票より】 (平成19年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	27 人
常勤18人, 非常勤 人, 常勤換算 4.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (12月15日現在)

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	8 名	要介護2	7 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 74 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人有隣会 貴田神経内科呼吸器科内科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リーフレットの紹介にもあるように建物は外観、内装とも和風旅館を思わせる造りになっている。平屋建ての建物の中に3ユニットがあり、どのユニットへも行き来ができてすべての利用者と職員が交流がある複数ユニットの利点を活かしたサービスを提供している。改訂以前から地域との関わりが非常に密接な事業所であり、理念が浸透している。送迎サービスの多機能性やかかりつけ医との連携など利用者や家族が安心できる体制が整っている。また、研修や勉強会も多く、職員を育てる仕組みも整っている。すべての職員が同じレベルでサービスを提供できるよう業務マニュアルも整備され、業務の平準化も図られている。毎年夏に行われるホーム主催の夏祭りは地域の多くの人々が参加する一大イベントとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	アセスメントがいつ行われたかについては日付を記入するようにし、手拭タオルをペーパータオルにした。また、介護計画の職員間の共有については、毎日介護日誌を全員チェックするようにしたなどすべての課題について職員全員で改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についてはわからないところを職員に相談しながら管理者が作成している。一部のユニットでは職員全員での取り組みが確認されたがその他については今後、職員全員で自己評価を作り上げ、ホームの強みや改善点をそれぞれが認識した上で外部評価を受診することを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には利用者代表、家族代表、自治会長、包括センター職員、法人代表、グループホーム管理者が参加し、日々の状況や行事の報告が行われている。最近では、夏祭りの実施における改善として更衣室の設置や消火栓の移動などが提案検討されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情窓口については内部および外部とも重要事項説明書に記載し説明している。また、第三者委員も設置し公表している。家族からの意見については年に一度アンケートをとり運営に反映させている。具体的な取り組みとして、女性だけのフロアにしてほしいという意見について実現した例がある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人々との交流の場として、年に一度夏祭りを開催し多数参加してもらっている。また、今年度の目標を「エコ・クリーン」として職員および利用者で2ヶ月に一度建物周辺の清掃活動を行っている。

2. 調 査 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は「喜誇心体」で家庭的な場を提供することと、地域に根ざし人々が健やかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与することを謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有するための具体的な取り組みとして、朝の申し送り時に運営理念を復唱し実践に努めている。また、地域の方々とはことあるごとに連携をとるように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々との交流の場として、年に一度夏祭りを開催し多数参加してもらっている。また、今年度の目標を「エコ・クリーン」として職員および利用者で2ヶ月に一度建物周辺の清掃活動を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についてはわからないところを職員に相談しながら管理者が作成している。外部評価については結果を職員へ回覧し報告している。また、改善項目については職員と検討しほとんどの項目が改善されている。	○	自己評価について一部のユニットでは職員全員で取り組みが確認されたが、ホーム全体として職員すべてが参加し、作成することを期待したい。

グループホーム たけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者代表、家族代表、自治会長、包括センター職員、法人代表、グループホーム管理者が参加し、日々の状況や行事の報告が行われている。最近では、夏祭りの実施における改善として更衣室の設置や消火栓の移動などが提案検討されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員が参加する医師会の会議に2ヶ月に一度参加し日々の問題について話し合っている。また、生活保護の利用者の対応などについて質問等がある都度行政に尋ね指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来た折、日々の状況を報告している。また、ホーム便りや金銭出納帳については毎月郵送している。遠方の家族にはメールを使った報告もされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口については内部および外部とも重要事項説明書に記載し説明している。また、第三者委員も設置し公表している。家族からの意見については年に一度アンケートをとり運営に反映させている。具体的な取り組みとして、女性だけのフロアにしてほしいという意見について実現した例がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者全員を職員全員でお世話することにより担当以外でも多く接することができ異動によるダメージを軽減させている。また、職員の離職を抑える方法として職員アンケートを実施するなどの取り組みを行っている。		

グループホーム たけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部では毎月一度、接遇、感染症、拘束、緊急時対応など年間計画のもと研修が行われている。外部では、グループホームケア研究会として島原地区のグループホーム15施設が集まり勉強会を行い参加している。その他行政等主催の研修にも随時参加させ、ミーティングにて職員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会島原支部に属しており、認知症についての勉強会に参加している。2ヶ月に一度の割合で、リハビリを通じた改善の事例研究会に参加している。また、スポーツや夏祭りを通じた相互交流も積極的に行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には入院先の病院に向いて家族を交え話を聞いたり、病院からの情報を得たりしている。家族からの希望で即入居という場合が多いが、今までに体験入所を経て入居された例が一例ある。いずれの場合も入居されてからは、一人で過ごす事がないよう常に声をかけるなど、徐々に馴染むよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の味見や洗濯物干し、繕い物を手伝ってもらえる事がある。今まで人生を生きてきたうえでの体験や様々な習慣を教えてもらう事も多い。スタッフは利用者と「共感」する事を大事にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の生活のリズムを尊重するようにしている。外出の希望については、希望を聞き出して、花見、買い物、墓参り等出来る限りの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「心身情報シート」「アセスメント表」を利用して、利用者や家族が希望する事、不安に思っている事、その方独自の特記事項を書き出し介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「介護日誌」をベースとして3ヶ月に一度介護ミーティングで意見を出し合い、見直しを行っている。状態が変化した時には終了する前であっても随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診や外出の支援は積極的に行っている。美容室へ行ったり、墓参りにでかけたりという事も行っている。		

グループホーム たけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。また、月に一度、かかりつけ医に受信する際にホームでのバイタル等の情報提供を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関しての指針を作成しており、家族からは文書にて、同意を得るようにしている。また、看取りに関してアンケートを家族向けに実施している。今までに、家族とかかりつけ医との連携の下、2名を看取った実績がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの誘導の際は、さりげなく、すみやかに言うように心がけている。失禁の際にかける言葉には、特に注意をして、傷つけないように配慮をしている。入居の際には、個人情報の取り扱いについて、同意書を取り交わしている。契約書は、鍵のかかる戸棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者一人ひとりのペースを大切にしているが、ほぼ毎日利用者の通院と入浴の付き添い支援を行っており職員が少なくなるため、事業所のペースになることもある。	○	日々の生活において職員のペースではなく利用者のペースに合わせた生活になるように期待する。

グループホーム たけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずは配食サービスであるが食事の準備や片付けなど声をかけて利用者にも手伝ってもらっている。食事は職員も全員利用者と同じものを食べている。給食会議を2ヶ月に一度開催しており、週に一度はホームで食事を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には全員が毎日入浴を行うようにしている。そのために入浴の時刻と入浴を行うか否か毎日聞き取りをしている。入浴を行えない利用者についてはその都度、清拭を行うようにしている。浴槽が利用者にとっては高く入浴しづらいケースもある。	○	浴槽に入りやすくするための補助具などを使用し利用者の負担を軽減する工夫を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味をもとに声かけして活動意欲を引き出すようにしている。手先の器用な利用者は積極的に貼り絵や手芸に取り組んでいる。また、五目並べを趣味として楽しんでいる人や掃除を進んで手伝う利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩、山羊のえさやりなど行っている。月に2回位は墓参りを兼ねての外出、文化の日には有明地区から月を見る会、花見など機会を見つけては外出をするようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は昼間は開けているが必要に応じてチャイムをつけることがある。現在はないが、徘徊の症状がある利用者の居室のはき出し窓は家族の了承を得て全開できないように工夫している。		

グループホーム たけふえ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回消防署の指導のもと利用者も交え行っている。そのうちの1回は地域の方々と交え協力を得て訓練を行っている。また、地域の方々にホームを見学してもらい避難経路を確認してもらっている。なお、避難訓練で1回は夜間の訓練を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量について管理を要する利用者については日誌に記録を残している。昼は2回水分の提供をしており、夜間は全員の部屋に配茶している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけ特に装飾物は利用者とともに作成している。また、季節に合わせた飾り付けや花などを飾るよう努めている。共用空間は音や光に関して不快にならないよう職員が気をつけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭より使い慣れた物品が持ち込まれており居心地良い部屋となっている。また、家族が訪問して居室に宿泊できるようになっており、さらにゆっくりくつろいでもらうために居室でお茶や食事することもできるようになっている。		

※  は、重点項目。